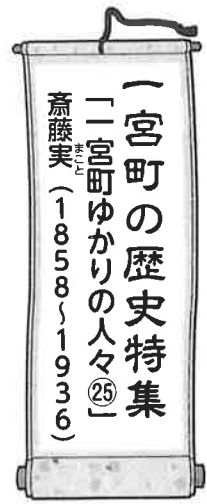


令和3年2月号



齋藤実(まこと)は現在の岩手県出身の海軍軍人、政治家です。明治39年(1906)から約8年間海軍大臣をつとめ、大正8年(1919)には第3代朝鮮総督に就任します。現役的首相であった犬養毅(いぬかいぎ)が暗殺された昭和7年(1932)の五・一五事件直後に内閣総理大臣に就任、約2年間首相の座にありました。首相在任中には国際連盟の脱退を日本政府として表明(昭和8年)するなど激動の時代を生きました。昭和11年(1936)2月26日、陸軍中堅・青年将校らが起こしたクーデター未遂事件(二・二六事件)によって暗殺されます。享年77歳。齋藤は一宮の新天地に別荘を有しており、大正3年(1914)に海軍大臣を辞してからは1年間の大半をこの別荘で過ごしたといわれています。ちなみに暗殺される前夜の昭和11年2月25日、齋藤はアメリカ大使公邸でジョセフ・グルー駐日大使と夕食をとりにし、トーキー(発声映画)を鑑賞しています。途中で退席して別荘に行く予定でしたが、結局最後まで映画を

鑑賞して夜遅くに帰宅、別荘行きを翌日にしたといわれています(グルー「滞日十年」)。この別荘は一宮の別荘のことだったと考えられています。歴史に「一宮」はありませんが、もし予定通りの行動をとっていたら、難を逃れており、歴史が少し変わっていたかもしれせん。



▲ 齋藤実扁額「神威赫赫」(昭和10年、玉前神社所蔵)

【問合せ】

教育課

☎(42)1416

(学芸員 江澤一樹)

令和3年3月号



平成23年(2011)3月11日の東日本大震災から10年。東北地方を中心に甚大な被害をもたらした一宮にも津波が襲来したことは記憶に新しいと思います。地震・津波災害に関する一宮の文化財は「延宝の津波供養塔(町指定史跡、平成28年11月号の本コラムで紹介)」などありますが、今回は東浪見地区の「浪切地蔵」(東浪見1670-1付近)を紹介いたします。浪切地蔵は国道128号沿いにあります。海岸からは約1.5kmほどの位置です。この地蔵の由来は詳しい記録がないためよくわかりませんが、2種類の言い伝えがあるといわれています。上総一宮郷土史研究会の『ふるさと』(1981年)によると、(1)江戸時代、九十九里地域は延宝・元禄と2回の大津波があり大きな被害が出た。村人たちはこの記憶を後世に残すために津波が到達した場所にこの地蔵を建てた。(2)この地蔵は津波以前から建てられていて村人の信仰が厚かった。そのため、津波もこの地蔵のところどとまった。これは地蔵の加護によるものであるとし、それからは「浪切地蔵」と呼ぶようになった。このようにこの地蔵は津波の前後に

存在したか否かという正反対の伝承が残っています。今となつてはどちらが正しいかはわかりませんが、いずれにせよ、津波と大きな関わりのある地蔵といえるでしょう。

ちなみに以前は右の写真のように首なしの地蔵でしたが、現在は左の写真のように整備されています。首なしの地蔵は現在の地蔵の内部にあり、過去の津波の記憶を今に伝えていきます。



▲ 昭和50年代の浪切地蔵(「ふるさと」(上総一宮郷土史研究会、1981年)より)



▲ 現在の浪切地蔵

【問合せ】

教育課

☎(42)1416

(学芸員 江澤一樹)